関西自然保護機構会報 18(1)： 67－69, 1996

ネ ム ノ キ に 思 う

島根大学生物資源科学部 片 桐 成 夫

REMEMBRANCE OF NEMUNOKI *(Albizzia julibrissin)*

Shigeo KATAGIRI *Fac. of Life & Environmental Science, Shimane University.*

20数年前，大学院生の私が京都大学芦生演習林に調査にしばしば通っていた頃，国道161号線の深見峠の手前の谷沿いに夏になるとネムノキの花がきれいに咲いていた。赤と白とが入り混じり，遠目にはピンクに見える花が印象的であった。夏に咲くキョウチクトウの花の紅がいかにも暑くるしいのと対照的に涼しげで，私の好きな花の一つである（写真１）。



写真１ ネムノキの花，山下多聞（島根大学附属演習林）氏撮影.

それからまもなく，昭和49年に島根大学に採用され，三瓶演習林を初めて訪れたとき最初に眼に入ったのがネムノキである。三瓶演習林は戦後まもなく伐採された二次林が大半を占めていた。戦前は薪炭林施業が行われていたそうで，萌芽で更新したと思われるコナラが優占し，尾根筋には切り残された天然生のアカマツが優占している。そんな中でネムノキがなぜか目に入った。当時の演習林の二次林は大半が30年生弱で，伐採後に侵入した先駆樹種が旺盛に成長していた。林内にカラスザンショウ，タラノキ，アカメガシワなどとともに，ネムノキが多く出現し，調査プロットを設定すると必ず１－２本のネムノキが出現した。

その後10年ほど経過した昭和50年代後半に森林内に存在する枯死木の調査を始めた。小径のコナラ，クリの枯死木に混じって，ネムノキの枯死木が数多くみられた。ネムノキは直径30cm位のものが多く枯死しており，樹の寿命が短いのではと想像された。遷移の初期段階に出現する樹種であり，一般に寿命が短いといえるが，カラスザンショウなどの枯死木が少ないことから，特に寿命が短いような気がしていた。今から思えば，年輪の解析をしておけば良かったと後悔している。最近になって，三瓶演習林で広葉樹林の一斉毎木調査が行われた。このときのデータを見せてもらうと，ネムノキがほとんど出ていない。ネムノキの本数

割合は0.5％未満である。ネムノキが出てくるのは林道沿いの開けたところか，林齢の若い広葉樹林に限られている。かつてネムノキを多く見かけた場所はもう50年生を越えた森林となり，ネムノキはほとんど枯死してしまった。それだけ三瓶演習林の広葉樹林がコナラ林として立派になってきたことを物語っているのであるが，私が最初に強い印象を受けたネムノキがみられなくなってしまい歳を感じている。

松江市の北東部，大学の近くに楽山公園という松江藩８代藩主松平不昧公ゆかりの回遊式庭園であった公園がある。この公園内に松江市が市民のために野球場を造成した時のことである。野球場の後方の斜面を整地したところにネムノキの実生が多く発生した。元々の土に埋まっていた種子が発芽したのか整地の際に運ばれてきた土の中に種子があったのかは定かではないが，裸地化されたところでネムノキの更新がはじまった。この実生を十数本自宅に持ち帰り，庭でネムノキの花を観賞しようと植えてみたが，ほとんど枯れてしまった。庭の土はまさ土で楽山と条件はほとんど変わらないのに定着させることができなかった。植え方が雑であったことも原因しているかもしれないが，同様に植えたヒノキ，ミズメ，コハウチワカエデなどは庭で順調に育っている。ネムノキは実生更新はするが移植しにくい樹種のように感じた。

また，二次林を皆伐して萌芽更新の調査を行ったときのことであるが，ネムノキの萌芽は非常に成長が速く，多くの種類の中でヤマザクラなどと１，２位を争う成長速度であった。コナラが数多くの萌芽枝を出すのに対して，本数は少ないが１，２年で３m以上に成長していた。伐採跡地では実生と萌芽の両方で更新しているらしい。

ネムノキの幹には円形の皮目が列状に並び，遠くからもそれと判る樹皮をしている。また，幹は正円でまるまると太り，柔らかそうで暖かい感じのする幹でもある（写真２）。

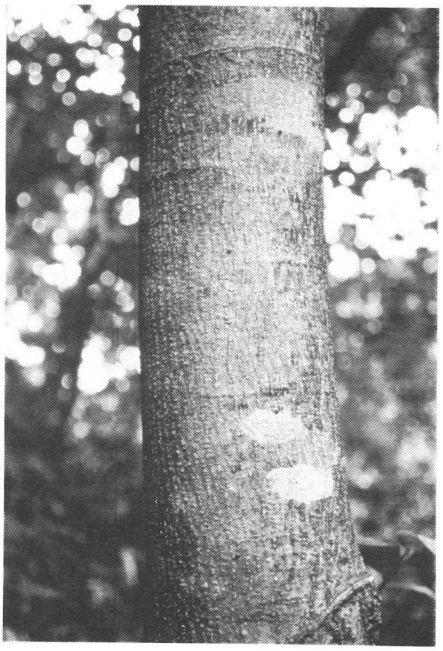


写真２　ネムノキの樹皮.

林内でみるとネムノキの葉は開葉が他の樹種に比べて遅く，５月の中頃にはまだ開いていないため春先に毎木調査を行うと枯死と判断されてしまう。真夏になっても樹冠を見上げると透いた感じで葉が少ない。ネムノキの葉は複葉で，小葉は細かく，非常に薄い。落葉広葉樹林のリターフォールを測定していると，葉の分別の時に非常にやっかいな代物である。一つずつピンセットで摘んで分けてやる必要がある。労力の割には重さを計るとわずかである。そのかわり葉軸の重さが多い。リターフォールとなった葉軸は枝と間違えやすく，慣れない学生はすぐに枝に入れてしまう。よく見ると葉軸には等間隔に小葉のついていた痕が黒くついているのですぐにわかるのだが。

ネムノキの窒素含有率は非常に高く，葉では４％以上とコナラやクリに比べると約1.8に達する。枝や幹についても他の樹種の約２倍の窒素含有率を示す。また，葉のリンの含有率も高いが，その



写真 3　インドネシアジャワ島でみた Albizzia の林.

他の元素では他の樹種より高い含有率を示すわけではない。マメ科の植物の特徴といってしまえばそれまででではあるが，森林の成立初期に養分面でも重要な役割を果たしている樹種である。

ネムノキはわが国だけでなく南アジアからインド，イラン北部まで広く分布しているという。昭和58年にインドネシアへ行ったときにジャワ島内を東から西へ旅行をした。そこで見かけたのはネムノキの仲間の Albizzia の造林地であった。熱帯でも成長の速い木として利用されていた（写真3）。

三重県の志摩に合歓の里というのができたとずいぶん前に聞いたことがある。まだ訪れたことがないので，今どうなっているかは知らないが，名前のとおりきっとネムノキの花が夏には咲いているのであろう。三瓶演習林でもうみられなくなったネムノキを訪ねて，暇を見つけて一度訪れてみたいと思っている。